

仙台市宮城野障害者福祉センター・障害者相談支援事業所ハンズ宮城野

令和7年度ボランティア養成講座を開催しました。

令和8年2月20日

仙台市宮城野障害者福祉センター

障害者相談支援事業所ハンズ宮城野

令和8年2月20日（金）、令和7年度ボランティア養成講座を開催し、17名の方にご参加いただきました。初めに当センター所長早坂健一が「宮城野障害者福祉センターについて」と題した講話を行いました。障害のある方が地域生活を営む上での課題や困難さを改善できるように取り組んで社会参加を支援する自立訓練事業や、地域の中で安全に自分らしく生きがいを持って暮らせるよう支援する生活介護事業など、様々なサービスを提供していることについて説明し、当センターの活動にボランティアとして協力いただきたいと話がありました。

その後、仙台市自閉症児者相談センター主任相談員西田有吾氏より「発達障害のある方の理解と支援」と題した講話をいただきました。発達障害のある人たちは、相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちを読み取ることが苦手であり、「私が好きなことは相手も好きはず」と思っており、電車や趣味など自分が好きなことについて話し続ける。こうした傾向は生まれつきの脳の機能の違いなので、生来的な違いを大切にすることが重要であると話がありました。

支援のポイントとして、①「次の見通しを具体的（視覚的）に示す」、②「本人が望んでいることと関連づけて『こうするとよい』と肯定的に伝える」、③「好きなキャラクター、マーク、いつも話していることなど関心のあるものをうまく使い、本人の興味を活用して望ましい行動につなげる」、④「ヘッドホンをつけたり、室内のライトを暗くしたりして周囲の刺激を減らす、刺激の多い場所を避ける」など、効果的な支援について学びました。

アンケートでは、「発達障害というどうしても負のイメージがあったが、今は少数派としての特徴ととらえていくことが大事だと分かった」「当事者の視点や気持ちを理解することの重要性を痛感しました」等の意見をいただきました。今後も、参加された方に障害理解をしていただき、協力ボランティアとして登録していただけるような内容の講座を企画し、開催していきたいと思えます。

### 【講座風景】

